

## 序

大学を22歳で卒業したのであるが、21歳のとき、哲学を学ぶことを決心した。しかし大学に2年間残り哲学を準備し、25歳のとき、大学院に入学し、哲学研究を始めました。博士課程を修了したときは30歳になっていました。25歳で哲学を始め、現在71歳ですから、46年経ちました。46年真面目に哲学研究のみした訳ではないが、それなりのことはしてきました。大学では当初西洋哲学史を担当しましたが、他にもいろいろな科目を担当しました。平成元年から22年の3月まで、22年間勤務しました。今回纏めたものは46年間考え続けた成果です。主にカント哲学への反論であり、ひいては観念論への批判であり、自分の哲学を展開させたつもりです。

学問は19世紀以後、特に20世紀になってから一段と分化され、深化されている。ある学問に関わる者が、他の学問を批判することは許されない、いや不文律である。なぜなら他の学問の内容を理解することは容易ではないからである。著者の考察は的はずれなところもあるかもしれない。もちろんその責任は著者の未熟さにあります。

目次をみれば、理解されることですが、本書は体系的に論じたものではありません。思いつくままに題をきめ、考察し論じたものです。読者は最初から読んでもよいし、目次をみってから読んでもよい。読者の自由です。順序は4年の間に書いた順になっています。皆様には少しでも気を引いていただければ幸いです。

2017年8月

著者



— 筆啓上 — つれづれなる論叢 —

---

目 次

## 序..... 1

第一 論考	認識能力は複数か	1
第二 論考	理念 (Idee)	5
第三 論考	心	9
第四 論考	自由	12
第五 論考	平等	15
第六 論考	自発性	17
第七 論考	神	21
第八 論考	客観的普遍的概念の成立根拠としての物質	23
第九 論考	信じる	28
第十 論考	認識能力の限界	31
第十一 論考	目的	33
第十二 論考	統覚 (Apperzeption)	35
第十三 論考	反物質——ある非侵襲的考察——	37
第十四 論考	リズム (rhythm)	41
第十五 論考	原子論	44
第十六 論考	自然	47
第十七 論考	愛する	49
第十八 論考	生と死	51
第十九 論考	進化	55
第二十 論考	作像	58
第二十一 論考	考える	61
第二十二 論考	天才	64
第二十三 論考	人権	68
第二十四 論考	幻覚・幻聴	71
第二十五 論考	STAP (stimulus-triggered acquisition of pluripotency= 刺激惹起性多能性獲得) 細胞	74
第二十六 論考	脳	76

第二十七論考	自然界の相互作用	78
第二十八論考	あるべき経済	82
第二十九論考	経験	85
第三十論考	区別と差別	88
第三十一論考	自己意識 (Selbstbewusstsein)	91
第三十二論考	生と死 II	96
第三十三論考	一対一対応 (one to one correspondence)	98
第三十四論考	分析的認識と総合的認識	101
第三十五論考	反時代的考察	103
第三十六論考	der kategorische Imperativ	106
第三十七論考	STAP 細胞 II	108
第三十八論考	死	110
第三十九論考	偶然と必然	112
第四十論考	must (müssen) と should (sollen)	114
第四十一論考	ゼノンのパラドックス	116
第四十二論考	情 (知・情・意の中の)	119
第四十三論考	徳治主義	122
第四十四論考	拝金主義	125
第四十五論考	純粹	128
第四十六論考	直観の形式	131
第四十七論考	天と地 自然 (神)	134
第四十八論考	格差	137
第四十九論考	エポケー (epokhe)	140
第五十論考	親孝行	142
第五十一論考	偶像	145
第五十二論考	平等と人権	148
第五十三論考	共同体の崩壊	151
第五十四論考	一神教	154
第五十五論考	全体と部分	156

第五十六論考	性	159
第五十七論考	女性の社会参加	162
第五十八論考	徳	165
第五十九論考	知性か、それとも感情か	167
第六十論考	神のことは神に任せよう	170
第六十一論考	ギリシア人	173
第六十二論考	フランク族の遺産相続を巡っての分裂	178
第六十三論考	徳目	182
第六十四論考	徳と理念	184
第六十五論考	物質	186
第六十六論考	一元論 (Monismus) と二元論 (Dualismus)	188
第六十七論考	戦争なき平和	191
第六十八論考	普遍	193
第六十九論考	政治形態	196
第七十論考	知を愛する	199
第七十一論考	形而上学	202
第七十二論考	ゼノンの弓矢とカントの神	205
第七十三論考	平和	208
あとがき		212